



海洋教育写真コンテスト入賞作品の紹介その4

海の風景とくらし部門の優秀賞、初声小学校2年生の吉野和真（よしかずま）さんの作品です。タイトルは「オショロ流し」。

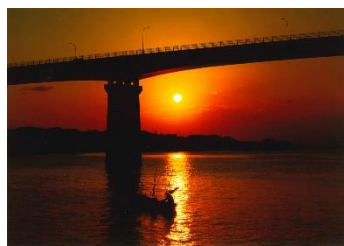
毎年、三戸で行われている「オショロ流し」。地域独特の行事を収めた三浦らしい1枚です。

赤、青、黄色の紙で作った花で飾られた、とても華やかな船を、子どもたちが沖までひいていく様子をとらえています。正面の船に目をやると、子どもたちをしっかりと見守っている大人の姿も印象的です。

同じく優秀賞、初声小学校5年生の坂口知助（さかぐちともすけ）さんの作品です。タイトルは「雲の灯台」。

巨大な入道雲と手前の白い灯台、自然の雄大さを感じさせます。手前のテントの色合いも、良いアクセントになっています。

坂口さんは、「撮影後雲が右に倒れていった」とコメントしています。動く雲を、タイミングよくカメラに収めた貴重な作品です。



同じく優秀賞、三崎中学校3年生の下里洗斗（しもざとひろと）さんの作品。タイトルは「漁師さんを照らす夕日」です。

下里さんは、「夕日が漁師さんの背中をわずかに照らしていて、漁師さんを見守っているように」感じたそうです。「夕日の色」は暖色。漁師さんを暖かく見守っているのでしょう。

同じく優秀賞、南下浦中学校1年生の井上颯麻（いのうえそうま）さんの作品です。タイトルは「僕らの町、三浦市」。

飛行機から撮影した一枚。三浦市が、三方を海に囲まれていること、海が身近であることを違った視点からとらえることができる作品です。雲が立体的であることも、しっかり確認できます。飛行機のつばさが、作品のバランスを整えています。

タイトルから、井上さんが、三浦市を愛していることがうかがえます。



11月17日（日）、潮風アリーナで、みうら市民まつりが行われ、本研究所も参加しました。

内容は海洋教育写真コンテスト入賞作品の展示、海の生き物のアイロンビーズ作りでした。アイロンビーズ作りは大盛況で、50人近くが参加してくれました。



外のブースでは、土間カフェさんと協力して、ワカメ入りドーナツ、ツナサンド、カジキマグロのコンフィなど、三浦の海の幸を使った食品を販売しました。午後になってすぐ完売しました。

（文責 事務局長 渋谷）

海洋教育に関するお問い合わせは、みうら学・海洋教育研究所854-9443まで